

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 29106：地球温暖化技術開発等事業（環境省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 28 日 : 15 : 40 ~ 16 : 00
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員
外部専門家 7 名（うち若手 1 名）
- 4 説明者：環境省地球環境局地球温暖化対策課 立川裕隆 調整官他

5 施策概要

各地で実施されている廃棄物系バイオマス利活用のモデル事業に関連し、収集・運搬から生成燃料の使用までの包括的なバイオマス利活用方法を確立するための実証研究、生成燃料（特にエタノール）の低コスト化を図るための収集方法、前処理、副生成物の利用拡大に関する実証研究を推進。

6 質疑応答模様

< 社会還元加速プロジェクト該当部分 >

【奥村議員】

23 年度の予算規模はどの程度か？

【環境省】

23 年度は 22 年度予算に 3 億円程度を追加して、合計 4 億円程度にする予定。

【外部有識者】

「未利用資源又は廃棄物系バイオマスの収集・活用技術に関する実証研究」は今年度終了するのか？

「廃木材系バイオマスからのエタノール製造コストを 100 円/L 以下とするための前処理、副生成物の利用拡大に関する実証研究」は社会還元加速プロジェクトかつアクション・プラン該当でもあるのか？

【環境省】

前者については、現在東京ガスが中心に研究しているが、今年度で終了する。

後者については社会還元プロジェクトとアクション・プランの両方に対応する部分であると考えている。

【奥村議員】

木質廃材の逆有償価格が 8 円/kg の場合低コスト化の目標をクリアできるのか？

【環境省】

現在は 100 円/L 程度になると予測している。

しかしながら、廃材系のバイオマス利用については原料の取り合いが盛んになっており、逆有償価格が変動する可能性があるため断言は難しい。

<アクション・プラン該当部分>

【相澤議員】

木質バイオマスに関して全体的な推進を主眼において進めて欲しい。

環境省は木材資源を回収して適切な処理をおこなうのだが、環境省だけで施策を進めるのは好ましくない。経済産業省との役割分担と連携はどのようになっているのか？

【環境省】

環境省は木質バイオマスの全体において最も出口に近いところを担当していると考えている。経済産業省との連携についてはコスト構成の開示や意見交換を行っている。

そのなかで、コスト構造上では発酵の工程よりも前処理などが高いという共通認識に至り、どのように解決するかについて話し合っている。

【相澤議員】

木質廃材の逆有償の問題と、日本の木材資源がどの程度あってどう有効活用すべきかという問題を経済的にコストだけで捉えるのは問題であると考えます。

この点について環境省の意見は？

【環境省】

木質バイオマスとしては林地残材の有効利用が大きな社会問題であると考えている。

前処理については剪定枝も廃材も同一技術である。そのため本施策で開発した施策は剪定枝にも応用可能である。技術開発に関連したものについては来年度以降も実施する。

林地残材そのものについては、農水省に任せている。環境省としては類似の竹材などについて、外部の意見など聞きながら進める。

【本席議員】

予算規模について、施策全体は50億円、社会還元は4億円としているがアクション・プラン部分の予算規模はどの程度か？

【環境省】

施策全体で50億円であり、バイオマス関連部分については大体10億程度である。

そのうちで、アクション・プランについては4億円くらいになる。

以上